

シアトル別院時報

29巻11月号

2010年度教化標語
世の中安穩なれ

阿弥陀仏、名号、念仏



新井俊一



釈尊は入滅される直前に弟子たちに、「私の死後は、私が説いた法と私が制した戒律があなたたちの師となるのだよ」とおっしゃいました。ということは、釈尊のいのちは説かれた法の中に生き続け、後の世に生きる私たちを導き続けておられると考えられます。

しかし法は釈尊が発明されたものではありません。釈尊の出現を遡る久遠の昔から真実としての法はあったのです。釈尊はそれを悟って、人間の言葉で私たちに伝えてくださったのです。逆に言うと、法が釈尊の口を借りて私たちの前に現出したのです。また釈尊は法を伝えるためにこの世に生まれられたのです。釈尊に先んじて存在したこの久遠の法、いつも人々の働きかけて真実の道に導くこの法を人格化して阿弥陀仏と呼びます。アミダとはサンスクリット語の amitāyus (無量寿) および amitābha (無量光) の音写であり、そのまま、仏の智慧 (無量光) と慈悲 (無量寿) を表しています。

もともと「阿弥陀仏」がこの仏のお名前 (名号) だと考えられていましたが、親鸞聖人が始めて、「南無阿弥陀仏」が名号だとおっしゃいました。南無は帰命とか帰依とかを意味しますから、「私は阿弥陀仏に帰依します」という意味で、南無は私の行為で、阿弥陀仏は私の行為の相手です。しかし、私に働きかけて阿弥陀仏に南無 (帰依) させるのが阿弥陀仏そのものですから、結局「南無阿弥陀仏」がそっくり阿弥陀仏から与えられた名号だというのが親鸞聖人の論理です。だから私たちが南無阿弥陀粒と念仏を称えるとき、即の時に私たちは阿弥陀仏の救いの働きに抱かれているのです。しかしそれは「浄土往生」をとげた、とはいいません。本当の浄土往生とは、煩惱が完全に解決された状態ですから、生きている間はそれは望めないのです。しかし、一旦念仏

11月の予定

- 7日 8時 ABA Hawaiian 朝食
10時 永代経・無縁法要
青木先生 バンクーバー仏教会
11時 日本語法要 青木先生
- 11日 ベテランズデイ 事務所休み
- 14日 10時 家族法要
11時 日本語法要 竹村先生
- 21日 10時 家族法要
11時 日本語プログラム
- 25日 感謝祭 事務所休み
- 28日 10時 家族音楽法要
11時 日本語プログラム

する身となれば、決して以前の迷いの生活に戻ることはありません。また必ず浄土に往生することが約束された身になります。

親鸞聖人の主著『教行証文類』の「行巻」の始めに、「大行とは無碍光如来の御名を称するなり」とあります。南無阿弥陀仏を称えるのは私の行為ですが、それが同時に阿弥陀仏の本願の働きによって起こされたものですから大行なのです。『歎異抄』の第二章に「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまゐらすべしと、よき人のおほせを聞いて信ずるほかに子細なきなり」とあります。浄土真宗は念仏に始まり念仏に終わる宗教です。

新井先生に許可を頂き転載させて頂きました。

先生の略歴：相愛大学名誉教授、文学博士(ハワイ大学)、浄土真宗本願寺派教師。

14 会得

沼田智秀著「ささえあって」百八つのおもい より

十分に理解することを会得と言います。私たちは、何事につけ、「わかった、わかった」と簡単にわかったことにして済ましていますが、後になって、どうだったかなと首をひねることがよくあります。

本願寺の元総長豊原大潤師は、「ああそうか」、「なるほどそうか」、「やっぱりそうか」という話をよくされました。なにを聞いても「ああそうか」で聞き流す人が多いが、「やっぱりそうか」と、身にあてて聞くことの大切さを話されたのです。

仏法の聴聞においても、頭で理解して「わかった」と言っている人を「もの知り同行」と言っています。話に感動し、涙を流して「今日の話はよくわかった。ありがたかった。」と話に酔っている人を「ありがた屋」と言っています。

本当に仏法を会得するとは、教えに身がうなづくことです。本当に仏法が身に領受解了されたのを「領解」といいます。



新年会

シアトル別院新年会は1月9日に決定。

チケットは11月28日より売り出されます。数に限り

がありますので早い目にお求め下さい。



もちセール

DS, Jr.YBA, CF と祭り太鼓の協賛で今年もおもちが作られます。お餅とちち餅とお重ねがあります。お重ねは別院

ホールの壁にあるサインアップに申し込んでください。チケットは11月より売り出されます。チケットの数に限りあり、ぜひ早いうちにお求め下さい。



メディテーション セッション



毎日曜日朝8時45分—9時半までと水曜日朝10時より前輪番ハウスにてメディテーションがおこなわれております。ぜひご参加下さい。

会員部より

今月も英語部に会費お支払いの方のお名前があります。この方々は2010年の維持会費をお支払いになった方々です。70才以上は\$250(\$500ご夫妻)、70才以下は\$300(\$600ご夫妻)です。これは別院の維持に対しての最低額になります。別院年会費は9月末が締め切りになり10月からは2011年度の会費となります。



別院音楽部より

別院クワイアではマンハセット ミュージック スタンドを坂田トム、ロレイン夫妻よりいただきました。とてもありがたいことです。どなたでもクワイアに参加できます。日曜9時より練習していますので参加してください。質問は谷野テリーか中林ケミ、gatha@seattlebetsuin.com まで。

今年も家族音楽法要が11月28日に営まれます。DSのミュージシャンとクワイア、太鼓が参加します。皆様のご出席を望みます。子供の法要でも音楽がとても大切です、だれでも音楽を演奏できる方に参加して頂き法要の音楽をよりよきものにしましょう。



白河仏教会で海野徹雄先生との聞法の座があります。

11月13日(土)9時—12時英語、1時—4時日本語 (歎異抄の心を戴く)

12時—1時にランチのサービスはありませんが各自ランチをお持ち下さると先生と一緒に召し上がれます。

費用は無料ですが寄付は感謝します。

白河仏教会は3625 Auburn Way North, Auburn, WA 253-833-1442

イーメールは wrlink4goldenchain@comcast.net

BCAより

キャンペーン21世紀の寄付2010年分は\$350,000.00になり、今までの総計は9月末現在\$18,611,669.00となりました。親鸞聖人750大遠忌法要寄付は680名より\$150,000.00に達しました。

年末のご寄付をご考慮戴けますようお願いいたします。ご質問などはローバート野口、510-809-1453 か robert@bcacampaign.org まで。

CBE-エジュケーションセンターのウェブサイトをご覧ください。

www.buddhistchurchesofamerica.org

CBEのFACEBOOK フレンドの名前は Center for Buddhist Education です。

ダーマスクールの今年の日本旅行の報告が英語面にあります。又、11月7日11時より2時まで写真などの報告があります。

12月の予定

- 5日 成道会法要 ポットラックランチ
- 12日 別院総会
- 19日 別院大掃除
- 31日 除夜法要7時

婦人会便り

会長のメッセージ

八幡静江



- 2010年10月24日(日)にシアトル別院仏教婦人会は先亡会員715名の追悼法要を営みました。特招御講師はアイダホーオレゴン仏教会の藤本デニス師でした。
- 2010年10月9日に加州サクラメント市に於いて催された米国仏教婦人会連盟代表者会議に新宅フランセスと賀久静江がシアトル仏教婦人会を代表して出席されました。
- 2010年11月21日(日)に別院婦人会総会が持たれます。引き続いて別院階下にて婦人会理事の為の慰労会が催されます。

婦人会活動

10月6日山口文子指導の下にビーズでのブレスレット作成のクラスでは、参加者は数ある綺麗な腕輪を作成されました。10月20日は田中リク子の指導の下で、折り紙のブックマーカーとポケット用暦のカバーを作成されました。

11月のクラフトクラスは下記の通りです：

- 11月10日：清水チヨ講師に依る、来るメデケーアプログラム変更に関するクラスが有り、別院会員又何方でも出席可能。
- 11月17日：メッシボックスのクラス—小北孝子指導。

全てのクラスは午前9時半—12時まで。上記に関する種々の情報や sign-up 用紙は別院オフィスの向かい側の掲示板に貼って有ります。

- 11月行事予定
- 7日(日) 婦人会理事会ミーティング —午前11時45分
 - 10日(水) メデケーア変更に関するクラス
 - 17日(水) クラフトクラス—メッシボックス
 - 21日(日) 婦人会総会—理事の為の慰労会

通信書記(日) 新保悦提出

<ABA ニュース>

ABA では法然上人 800 回忌・親鸞聖人 750 回忌記念前進座特別アメリカ公演「法然と親鸞」を観にバークレイまで行く計画があります。11月14日3時よりの公演で上西ゲールが公演のチケットとホテルのアレンジをします。エアーと別のホテルは各自アレンジのこと。連絡は下記のイーメールまで。

日本語版のイーメール・アドレス Newsletter-jpn@seattlebetsuin.com
シアトル別院時報日本語面翻訳・編集 和田真知子